（第３種郵便物認可）　プレス空知　２０２６年(令和８年)１月３１日(土曜日)

学校法人国学院大学の公式ホームページでは、傘下各校の行事や取り組み等を公開しています。
左記の二次元コードからぜひご覧ください。

学報 News CATY（ニュース キャティ）

2026年1月
第167号

発行／国学院大学
北海道短期大学部
滝川市文京町３－１－１
TEL0125-23-4111　FAX0125-23-5590
広報委員長　菅原　健太

学びの成果を発表

学生たちの活気あふれる発表会

国文学科

12月6日にホテル三浦華園で、本学国文学会の令和7年度卒業論文発表会が開催されました。国文学科の全学生と教員は国文学会に所属しており、本発表会は学会の12月の恒例行事となっています。

本会は国文学科の教員各1名が担当する7つのゼミナールから代表の学生が登壇して、卒業論文の内容をそれぞれ10分間で口頭発表するもので、学生は自らの卒論の制作への意欲を掻き立てられ、また良い見本を得ることになります。今回は秋山ゼミ「国語科と総合的な学習の時間の関連について」、安田ゼミ「太宰治『富嶽百景』論」、山寺ゼミ「中国におけるソグド人」、堀越ゼミ「ジャポニズムと日本の対外姿勢」、月岡ゼミ「熊谷高校應援團の民俗学的特徴」、森ゼミ「日中韓の墳墓の壁画にみる仙人と鳥」、渡辺ゼミ「若紫の『生ひ先』」（以上副題略）の発表がありました。一般の聴講も受け付けていますので、次回はぜひご参加をいただければと思います。

総合教養学科

12月13日、三浦華園にて総合教養学科の研究発表会を実施しました。前半は1年生「スマートシティ時代における商業空間の再設計」「ユニクロはなぜ世界標準になれたのか」など10本の発表。後半は「現代女性のルッキズム傾向と原因の考察」「高校無償化が及ぼす影響について」「奢り奢られ論争」など2年生の発表8本。それぞれのゼミの特徴が現れた18本の聞き応えのある発表でした。

ゼミ生からは、「学年が上がるにつれて専門性が増していると感じた」「1・2年生共にテーマやスライドが興味深く、先行研究や実際のデータを用いて考察していた点が説得力を高めていた」「寸劇やり取りを入れて聞き手を惹きつける工夫が非常に効果的だった」「次年度の研究では、ここで得た様々なヒントや要素を取り入れ、より一層良い研究になるようにしたい」といった感想が聞かれました。

幼児保育コース

幼児保育コースの恒例行事である「楽しい発表会」の学外公演が行われました。まず12月5日には幼保コース2年生と教員が白樺幼稚園を訪問し、授業等で製作した舞台装置等を運び込み、発表の舞台を整えました。園児の入場、挨拶の後、学生による手遊びや楽器演奏、絵描き歌などが次々に披露されていき、準備も兼ねた小休止の後、劇「あかずきん」が始まりました。

少しだけアレンジが加えられた脚本では驚きの展開もありましたが、楽しんでもらえていたようです。

児童教育コース

12月12日には滝川幼稚園を訪問し、同様に発表を行いました。前回の反省を活かした修正や赤ずきんのキャスト交代など少しだけ変化もありました。

終了後の学生は皆、やり切ったという充実感で溢れていました。

1月15日、「第18回初等教育研究会報告会」を本学において開催しました。報告会には滝川市教育委員会、小学校及び地域の方々をお招きし、本コース1・2年生と教員が参加して、例年開催しています。3名の担当教員の指導のもと、2年生が学修成果を報告しますが、今年度は「児童の学びへの意欲を引き出す主体的・協働的な授業づくり」（粟井ゼミ）、「私たちが考える自然環境の変化と食育～稲作体験活動の取組を通して～」（橋本ゼミ）、「小学校『質の高い探究的な学びの充実に向けた単元開発～小学校「総合的な学習の時間」における旭山動物園の効果的な活用～」（山川ゼミ）のテーマで発表があり、活発な質疑が行われました。

発表により、2年生の1年間にわたる学修が価値付けられ、春からのそれぞれの進路での活躍が期待される報告会となりました。

ほりこし・ゆういち
茨城県常総市生まれ。國學院大學文学部史学科卒業、國學院大學大学院文学研究科博士課程後期単位取得退学
博士（歴史学）、専攻は日本中近世史
将棋の腕前はアマチュア４段、将棋の関東大学リーグ戦にも出場した経験あり

歴史の楽しさ伝えたい

史資料をもとに考察し、日本史の謎の解明に近づく

国文学科 教授　堀越祐一

織田信長や豊臣秀吉らが活躍した織豊期を専門とする堀越祐一教授。平成16年には「豊臣『五大老』『五奉行』についての再検討―その呼称に関して―」で「第5回日本歴史学会賞」を受賞し、著書に『豊臣政権の権力構造』（吉川弘文館）があります。現在、本学ホームページでコラム「大河ドラマ『豊臣兄弟！』をより楽しむために」を連載中。堀越教授に、日本史に興味を持ったきっかけ、堀越ゼミ、サークルの活動、大河ドラマ『豊臣兄弟！』の見どころについてお話を伺いました。

研究者となったルーツは恩師 二木先生の著書との出会い

日本史の研究者になるとは思っていませんでした。日本史に興味を持ったきっかけは、高校時代に日本史をわかりやすく書いていた二木謙一先生（國學院大學名誉教授）の著書を読んで戦国時代に興味を持ったからです。その後、二木先生を慕って國學院大學文学部史学科に進学し、更に大学院の博士課程へと進み、平成18年には「豊臣政権の権力構造と支配秩序」で博士号（歴史学）を取得しました。

大学・大学院では二木先生に師事し、史学科の伝統である「実証史学」、すなわち厳密な史料批判を基礎に研究するとともに、千々和到先生（國學院大學名誉教授）には日本各地の史料調査に加えていただき、多くの教えを受けました。

ゼミは考古学から近現代史まで日本史全般を研究

堀越ゼミは歴史学を専門とするゼミで、現在、国文学科の学生が30名（2年生10名・1年生20名）所属し、歴史好きな学生たちが、ときに厳しく、ときに楽しく学んでいます。ゼミ生の関心は多様で、考古学・古代史・中世史・近世史・近現代史など日本史全般に及びます。大河ドラマでも取り上げられることが多い戦国時代や幕末の人気が特に高いですね。ゼミでの授業は学生の研究発表がメインで、卒業するために必須の卒業論文を完成させるため、日々努力しています。

ゼミ生の進路は、國學院大學へ進学する者、地元の公務員や企業に就職する者など様々です。短大での2年間の経験を活かして、大きく飛躍してくれることを期待しています。

サークル「古文書研究会」

ゼミ生の多くがサークル「古文書研究会」に所属していて、顧問である私の指導のもと、古文書の読み方を学んでいます。知見を深めるための研修旅行も行っており、これまで函館五稜郭や網走監獄博物館、安土城址や大阪城および近隣の博物館へも足を運びました。

ドラマにおける秀長の役割「金ヶ崎の退き口」「本能寺の変」

大河ドラマ「豊臣兄弟！」の今後の見どころについて、3点ほど挙げたいと思います。

まずは「金ケ崎の退き口」。1570年、越前国（福井県）の戦国大名朝倉義景領への侵攻が失敗した織田信長は全軍撤退を決意、背後から押し寄せてくる朝倉勢を防ぐ危険な役目を命じられたのが秀吉兄弟でした。死を覚悟した兄弟の奮戦は、前半の山場と言えるでしょう。

つぎが「本能寺の変」。物語中盤あたりになるでしょうか、1582年に発生した、言わずと知れた有名な事件です。変報が秀吉に届く場面は、これまで何度も描写されてきました。信長死去を知って動揺する秀吉を鼓舞する役目は、いつも黒田官兵衛が担ってきましたが、今回は主人公の秀長が兄を励ます描写となる可能性もありそうです。

最後に「秀吉兄弟と徳川家康」。ドラマ後半、家康は秀吉兄弟の前に立ちはだかる巨大な存在として描かれることになると思います。秀吉は家康を従えるために、母や妹を人質として家康へ送るのですが、秀長はこれにどのような反応を見せるのでしょうか。兄弟の大喧嘩という場面もあるかもしれません。

この他にも見どころはたくさんあります。放送もはじまり、注目度も急上昇している「豊臣兄弟！」、どうぞ楽しんでください。

堀越教授のコラム「大河ドラマ『豊臣兄弟！』をより楽しむために」は、本学ホームページで毎月1回、中旬に更新しています。こちらからご覧になれます。時代背景や人物像、物語を一緒に楽しみましょう。

ウインタースポーツを通じ道内ならではの自然を満喫

1月18日、カムイスキーリンクスで開催されたウインタースポーツ講座に参加しました。私は将来、小・中学校の教員を目指しています。将来児童にスキーを指導する立場になることを見据え、まず自分自身のスキー技術を高めること、そして児童にスキーを楽しんで取り組んでもらうために、どのような指導を行うべきかを考えることの二つを目的として、本講座に取り組みました。

諸外国から多くの人が集まる世界有数のスキー場で練習することができ、ターンの技術向上や上級コースへの挑戦など、自身の技術力向上に向けて努力しました。また、友人と互いの滑走についてアドバイスをし合い高め合う経験は、将来児童を指導する際の大切な基礎になると感じています。

私は関東出身で、雪は身近な存在ではないため、雪そのものに新鮮さを覚えました。家族でスキーに挑戦したが、北海道ならではの雄大な景色や透き通る空気を五感で感じることができ、非常に貴重な経験となりました。

また、昼食時に皆で食べた山盛りのカレーは、北海道の広大さを感じさせるもので、格別に美味しかったです。（幼児・児童教育学科 児童教育コース1年／田島朔）

滝川の食材でコロッケ

総合教養学科の2年生 前田市長にプレゼン

総合教養学科2年「経済基礎演習」（担当／助教 板垣由美子、助教 寺嶋将）は、課題解決を通じてアカデミックスキルと問題意識の醸成を図ることを目的とした講義です。今年度は、滝川市への政策提言を目指し、4月から4～6名のグループごとに調査・研究を行いました。

11月25日、板垣先生と私たち総合教養学科2年生の代表7名は滝川市役所を訪れ、前田康吉市長や関係部署の方々に、滝川市のまちづくり案をプレゼンテーションする機会をいただき、2つの学習成果を発表しました。このまちづくり案は、前期に開講された「経済基礎演習」の成果です。

私たちのグループは、滝川市の食材、羊肉、鴨肉、菜花などを使用したコロッケ「たきコロ」を、滝川の名物料理として育てることを提案しました。滝川らしさにあふれた料理を日常的に食べることで、「滝川」を身近に感じるようになり、滝川に住む人も、離れる人も、訪れる人も、「滝川」により強い愛着を持つようになるのではないかと考えました。

現在は、今年の「たきかわ菜の花まつり」に出店するため、動き始めています。滝川市からも協力をいただけることになり、総合教養学科のまちづくりプロジェクト「シエル」のメンバーとともに頑張っています。ぜひ食べに来てください！（総合教養学科2年／藤谷悠灯）

科目等履修生・聴講生募集

「もう一度学びたい」「新しい知識を身につけたい」そんな社会人の皆様へ、本学では科目等履修生と聴講生を募集しています。

この制度では、本学で開講している授業を1科目から受講でき、国文学や日本の文化・歴史、一般教養など幅広い分野が開講されています。科目等履修生では履修科目の単位が認定されるので資格取得やキャリアアップに、聴講生では単位認定はありませんが、知的好奇心に沿って自由に専門分野の知識を深めていただけます。

受講希望の方は、ホームページに掲載しております募集要項をご覧いただき、本学までお問い合わせください。